Rotary ロータリーのマジック

国際ロータリー第2610地区
南砺ロータリークラブ
クラブ会報 なんと

NO. 2668

URL http:www.nanto-rc.jp E-mail office@nanto-rc.jp

例会日／火曜日 12:30点鐘 例会場／福光会館２Ｆサークルルーム１ ◆事務局／富山県南砺市福光7336-4 ふくみつ光房内 ☎ 0763-53-1333 FAX 53-1334

別院式台で雅楽　城端・山本欣正氏撮影

樹齢370年の「糸ざくら」の開花を愛でて…（4/6）

第2729回例会 令和７年３月18日(火) 晴 8℃

◆点　鐘　12:30　久恵龍三会長
◆司　会　谷村賢治SAA
◆ソング　「それでこそロータリー」

山田清志君FBより

観音町綱引き交流大会（4/6）

◆会長の時間　久恵龍三会長
＊地区大会報告

15日の指導者育成セミナーでは最初に泉谷満寿裕珠洲市長(珠洲RC会員)の講演がありました。昨年１月１日の大規模地震から今日に至るまで、被災の状況や復旧復興へ向けての経過等を事細かにそしてリアルに報告を戴きました。まさに「現場からの生の声」といった感じで、100年に１度の大地震と、追い打ちをかけるように襲った大規模豪雨災害の様子がひしひしと伝わりました。復興への道のりはまだまだ長いことを再確認し、ロータリアンとして引き続き物心共に支援を続ける必要性を痛感しました。

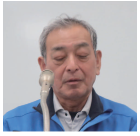
続いて宇奈月町出身で熊谷組元社長の太田弘さんから黒四ダムの建設に関わる逸話を話して戴きました。全長5.4ｋｍの大町トンネルの中でわずか80ｍではあるけれど掘削のゆく手を阻んだ破砕帯をいかにして突破できたのかを当時の関西電力の社長さんと、熊谷組の下請けで工事をされた笹島建設社長さんのトンネル内でのやり取りをリアルに語って戴きました。最大の難関を前にして、笹島社長の知見に裏打ちされた「できます」の勇気ある回答と、それを受けて「すべての責任は私がとる」と工事の継続を決断した関電の大田会長。2人の強い意志が工事にかかわったすべての人々の心をつかみ、一丸となり見事破砕帯を突破し、大町トンネルが貫通しました。着工から７年、ついに世界に誇る黒四ダムが完成しました。

16日の本会議に続き、狂言師の野村萬斎さんの演技を交えての講演がありました。

演技はごく一部ではありますが初めて生で狂言を鑑賞しました。一子相伝の狂言を極めた野村萬斎さん。その凛とした立ち居振る舞いと迫力ある演技に圧倒されました。野村万作、萬斎、裕基と親子3代にわたり狂言という伝統芸能を継承するだけでなく、狂言のイノベーションに挑戦し、映像や現代劇などとコラボし、幅広い分野で活躍されている野村さんに感動と勇気をいただきました。

富山第四グループは6つのクラブを合わせてもわずか120名ほどの人数ですが、総力を結集しての地区大会は、どの企画も開催側の熱意がひしひしと伝わりとても心に残るすばらしい大会でした。関係されたすべての皆さんに感謝です。

★南砺市児童クラブ連合会よりの案内
《ふれあいキッズフェスタ実施計画》



長谷川常任理事

＊テーマ・コンセプト
子供たちの生きる力と人をおもいやるやさしさ、地域を愛する心を育てよう。
＊開催日：2025年7月６日(日)　10：00－15：00
＊場所：じょうはな座
＊内容：室井滋氏による絵本読み聞かせ／友井賢太郎ピアノ演奏

◆地区大会表彰伝達：大島孝会員…長寿ロータリアン(85－90)
＊荒井進会員…90才以上の長寿会員を代表して登壇。
＊岡部一輝会員（在籍40年）　（過去に未表彰の方

★ニコニコボックス　3／18　吉田美花委員長

荒井君　昨日、地区大会で90歳以上は年寄りの記念品を戴きました。皆様のおかげです。ありがとうございました。
久恵君　実りの多い地区大会でした。
上坂君　藤井さん卓話楽しみにしています。ありがとうございます。
大島君　今回参加できて楽しいです。
吉田美君　藤井さん、先日お世話になりました。本日の卓話楽しみです。
本田君　藤井先生の卓話、どきどきします。よろしくお願いします。
吉田実君　藤井さん、卓話楽しみです。よろしくお願い致します。
谷村賢君　地区大会、急に参加できなくなり野村萬斎さんを見られなかったのが残念です。本日五十五歳の誕生日です。今後ともよろしくお願いいたします。
牧　君　荒井さんおめでとうございます。我々も目ざそう90才!!
井沢君　荒井進さん地区大会での長寿会員表彰おめでとうございます。
尾山君　地区大会!!前回よりもおもてなしが良かった。皆様満足された様子。
石﨑雄君 髙瀬君　船藤君　野村君／　藤井さん、卓話楽しみです。
鮫島君　地区大会に行って来ました。楽しかったです。
藤井君　先週のFMでうちまでお越し戴き、誕生祝い迄していただきありがとうございました。本日の卓話、少しでも皆さんに興味をもっていただけるとうれしいです。
澤田君　10年近く「14歳の挑戦」の推進委員長をさせていただいておりますが、その間、藤井さんには、福光中学校校長先生として、大変お世話になりました。卓話楽しみにしております。
安居君　地区大会お疲れ様でした。END POLIO NOWの募金、ご協力ありがとうございました。又、ご長寿ロータリアン特別表彰荒井さんおめでとうございます。記念講演の狂言師野村萬斎さんかっこよかったです。
谷村修君　3/22、日本でのラジオ放送100周年だそうです。
榊　君　今日からメジャーリーグ開幕です。日本人選手の活躍を期待します。朝乃山も全勝で優勝して欲しいものです。藤井さんの卓話楽しみです。
森 雄君　先日からご心配をおかけしております。皆様からの温かいお声掛けに感謝します。
石﨑和君　いよいよ高校野球始まりました。春の選抜大会。荒井さん、先日はおめでとうございました。南砺の星です。

本日のプログラム ４月１日(火) 第2730回例会
《例会変更》庄川水公園　観桜会「鮎の里」
担 当　本田敏親睦活動委員長

◆出席報告　上坂英伸委員長

会員数	３月18日出席率	３月４日の修正
44 (免除1)	68.18％ (出30)	79.55％ (出35メーク１)

メーキャップ：石﨑和三君

次回の予定　４月15日(火) 第2731回例会
《IAセミナー》南砺福野高校ＩＡ部員：台湾研修報告
担 当　谷口和尋ＩＡ委員長

会員卓話「生きる力の基盤形成」　藤井一哉会員（浄土真宗大谷派：教了寺　住職）

私、いわゆる二足の草鞋で来ました。住職になったのは10年ほど前なんですが、教員として勤めながら、住職をやってきました。
そのうち中学校の教員のことについてお話しようと考えてまいりました。　(中略)

私が教員になった頃からユトリ路線っていうのが始まりました、ゆとり教育っていうのは世の中でえらい騒がれたということがありましたが、それは私が採用されたころからもう既に文部科学省も、ゆとり路線っていうのを考えていました。その背景には何があったかというと、校内暴力いじめ、受験戦争、こういったことが社会問題化していたので、もっと学校教育で子供たちにゆとりを持たせなくちゃいけないということで、ゆとり路線っていうのが始まったわけです。

その中では生涯学習の基盤形成。小学校中学校高校で教えたことを詰め込むんじゃなくて、生涯にわたって学習し続ける。学び続ける、そういう子供を育成しよう。つまり「**生きる力**」という言葉がこの頃から入ってきたのです。

平成14年の学習指導要領からでものすごく社会的に話題になりました。学習内容をごそっと減らしたのですねその時に導入されたのが総合的な学習の時間です。現在小学校では年間50時間、中学校では70時間、これ週に直すと中学校で週2時間、総合的な学習の時間があるという計算です。その週2時間分、教科から減らさないとこの時間捻出できません。ですから他の教科は時間数が少なくなる、そのためには学習内容を減らさざるを得なかったのです。減らすことによって、考える力を身につけさせるということですね。教え込まれるのではなくて、**自分で考えていく**という方針に変わっていきました。

平成14年に完全に週5日制に変わり日を減らされました。

これは学習内容を減らさざるを得なかったということで、校内暴力、非行ですね。いじめ、僕が採用された当時は登校拒否が増え始めた時期、それから学級崩壊ですね。このようなことがどんどんと社会問題化していった時代です。

当時はです。今はそうでもないのですが、高校はもしそういうことがあると退学にできます。中学校は義務教育ですから、卒業させなくてはいけない。中学校だけがこういう問題に正面から対応して、なんとか卒業させなくてはいけないっていうジレンマを抱えていました。

そんな中で、漸く皆さんに関係のある**14歳の挑戦**が出てきます。平成11年から富山県は**社会に学ぶ14歳の挑戦**を始めます。富山県もいろんな形でこういう職場体験っていうのをやってきてました。

やってきた上で平成11年に社会に学ぶ14歳の挑戦という形になったのです。で、平成10年に兵庫県でトライアルウィークっていう5日間体験するショップ体験をするという活動なんですが、その背景は平成7年にあった阪神淡路大震災で、子供たちの心の荒廃というか、そういうことが社会問題化してきたんですね。それが形になって出てきたのが平成9年の神戸の連続児童殺傷事件、酒鬼薔薇(榊原)事件です。このように阪神淡路大震災の後、非常に子供たちの心が荒んできて、いろんなことが問題化してきた。生命や人権の尊重とか、ボランティア精神とか、そういったことを子供たちに育成したい、心の教育を推進したいという思いで、兵庫県はトライアルウィークというのを始めた。1年遅れて、富山県は14歳の挑戦を始めます。

ちょうど僕この平成11年利賀中学校の二年生の担任でした。二年生が14歳の挑戦の学年で、初めての事業ですので、校長先生とも相談して、3日間したような気がします。利賀村の中のいろんな事業所に相談していくつかの事業者さんに引き受けていただいた覚えがあります。この14歳の挑戦の趣旨はいろいろあるんです。

いろんな目標とか目的とか趣旨があって、一つは最初、言われたことは、**地域の子どもは地域で育てる**っていうのが大きな目的。学校だけではどうしようもならなくなっている状況があったのですね。ですから、地域の人たちにぜひ地域の子どもたちのことを見てほしいなっていうのが一つの思いでした。地域ぐるみでいじめや不登校の増加に対応していこうということです。それから子どもたちに社会の現実異年齢集団等の多様で幅広い人間関係を得る。そういう経験をさせてやりたいということで、これ学校の中ではなかなか難しいんですね。学校っていうのは非常に閉ざされた空間で、特殊な世界で、教員の常識は社会の非常識ってよく言われました。

学校の常識っていうのは社会では通用しないよっていうことよく言われたんですが、そういう閉鎖された空間で子供たちが育っているので、もっと社会に出して、社会の現実とか。すごい先輩、大人の方との触れ合いとか、そういったことを経験させてやりたいと。

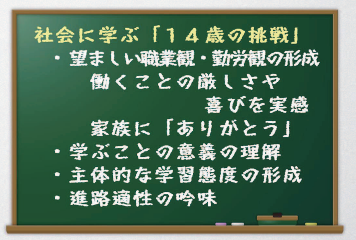
現在14歳の挑戦で謳っていることは望ましい職業感、勤労感の育成ということです。当初言われたのは、働く厳しさなど、それを5日間で経験させて、ヘトヘトになって、うちに帰ってきて。「いや、お父さん、お母さん働いて、僕ら私らを育ててくれとるけど、。働くちゃ大変なことなんだ。お父さん、お母さん、ありがとう」って言えるような子ども達にしたいなっていうのがこの14歳の挑戦の思いなんですね。そして、働く時のために今、中学生として学ぶことがあるだろうと、学ぶことの意味に気づくということですね。

そうすれば将来社会に出る時のために、やっぱもっと勉強せんなあかんなとか、もっと体験せんなあかんなっていう、まあ、主体的な学習態度を形成する。そんな意味合いが14歳の挑戦にはあるということなんですね。一番最後に進路適正の吟味いうことで、自分はこの職業に合ってるのかなとかこの職業を選びたいなっていう話は、結局14歳の挑戦で選べる事業者は1か所だけなので、なかなかそれですぐこの職種に行きますすっていうわけにはいかないだろうと思うのですね。ただ、その一つのヒントにはなるだろうということでやっております。

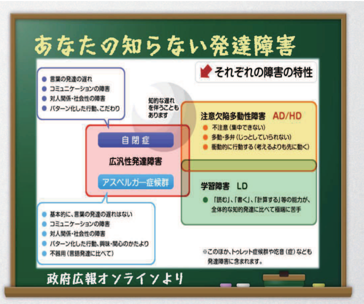
26年経ちました。実績があって、成果もあれば課題もある。毎年澤田実行委員長さんにも、いつも出て戴いて、最後に報告したりとかさせているのですが、やっぱり課題もいっぱいあるんですね。

事業所さんには本当にこの忙しい時に子供たちを引き受けていただいて、その仕事の時間を割いてまで対応していただくと本当に申し訳ないなと思います。

趣旨があって、それにも価値があると僕ら思っているからできる。皆さんにもそれに賛同していただいているから続いているのかなというふうに思っておりますので、ぜひ事業所さんと子どもたち生徒、子どもたちと保護者の皆さんと学校がそれぞれ思惑があると思うんです。その思惑とか、思いをいろいろ話し合いながらいいものにしていていただけたら、ありがたいなというふうに卒業した者は勝手ながら思っています。



私もそういった学級がある学年を経験しました。で、その中で出会ったのが発達障害ということです。最近は発達デコボコなんていう言い方をします。これどういうことかというと、脳の発達にデコボコがあるっていうことなんですね。すごく発達したところもあれば、すごく未発達のところもあって色々デコボコがあると。それがなかなか生きていく上で辛さがあったりする、そういうのを発達障害というふうに言っています。スクールカウンセラーに来ていただきました。(まだまだお話は続くのですが紙面の都合で割愛させて戴きます)



(今回の会報担当：本田敏)

◆会報委員会㊍中田裕二㊔石﨑和三(顧)、山田孝、谷村修基、榊祐人、本田敏、牧 千収、川合声一、谷口和尋、武田慎一、井沢正生